

サウンドデザイン演習 13. サウンドデザイン実践 I

目次

- 前回のおさらい
- 今日やること
 - サウンドデザイン実践 I
 - Audition
 - 新規
 - マルチトラックセッション
 - オーディオファイル
 - マルチトラックセッションとオーディオファイルの違い
 - PremiereとAuditionの連携
 - 音声クリップの編集
 - prprojをAuditionで開く

はじめに

HPの置き場所(再掲)

<https://sammyppr.github.io/>

に置きます。これは学外からも閲覧可能です。

前回のおさらい

ナレーション録り

- ナレーション録り

今日やること

サウンドデザイン実践 I

ナレーション録り、の体験をしてみましょう。

Auditionの使い方を少し触れてからとします。

なお、それ以外の人は最終課題に取り組んでください。

Audition

新規

- マルチトラックセッション
- オーディオファイル

の2種類があります。どちらで作業しているのかを意識する必要があります。

マルチトラックセッション

マルチトラックのモードでは、オーディオファイルを複数同時に再生したり個別に調整やエフェクトをかけることができます。

オーディオファイル

モノラル(1ch)かステレオ(2ch)となります。

マルチトラックセッションとオーディオファイルの違い

オーディオファイルとマルチトラックでは、できることが少し違いますが一番の違いは直接オーディオファイルを編集するか、しないかの違いです。

オーディオファイルを直接編集しないマルチトラックではやり直しを簡単にできます。

[Adobe Audition](#) マルチトラックセッションとオーディオファイルの違い

PremiereとAuditionの連携

ある程度のことがエッセンシャルサウンドでできますが、ノイズをスペクトルで取りたい、等はAuditionを利用する必要があります。

音声クリップの編集

Premiereで音声クリップを右クリックして、「Auditionで編集」をすると、

- Premiere上でファイルがコピーされる
- Auditionで作業して保存
- コピーされて、編集されたものがPremiereで反映される

となります。

コピーされているので、元素材はそのまま残っているということになります。

prprojをAuditionで開く

Premiereのファイルは拡張子がprprojですが、Auditionでそのまま開くことができます。

無理してAuditionを利用する必要はないですが、映像が出来上がっていて、音に専念したい場合には、Auditionを利用してもよいでしょう。

AuditionからPremiereに戻るには「書き出し-Adobe Premiere Proへ書き出し」を利用します。

説明動画

[Adobe Audition超基本講座 #01 Audition内のモードとPremiere Pro連携](#)

最終課題(再掲)

- 最終課題ページ